

都市再生整備計画（雀宮地区）の概要

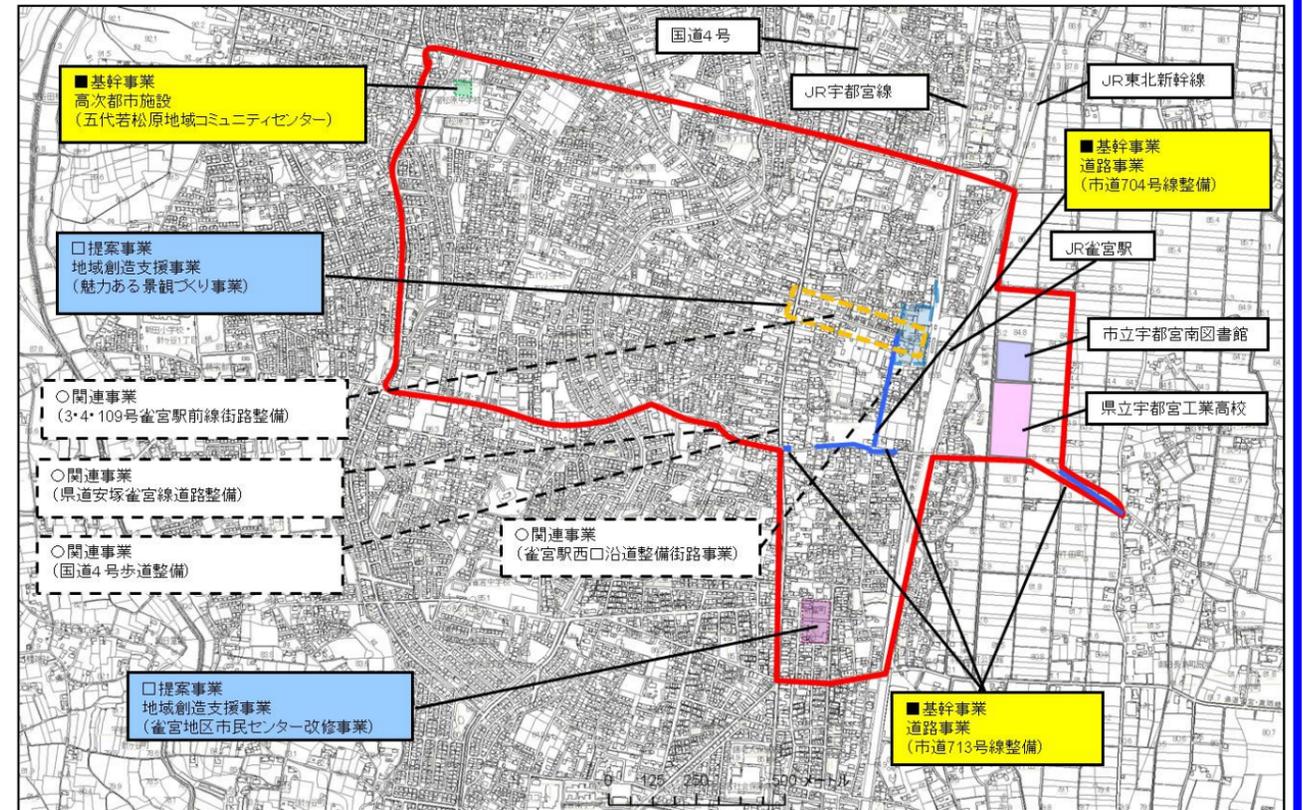
本地区は、南北に走るJR宇都宮線と国道4号を軸に住宅系の市街地が形成された都市的土地利用が進んでいる地区である。古くは東山道が通るとともに、江戸時代には日光街道及び宿場町が整備され、明治時代に鉄道が整備されると雀宮駅が開設されるなど旧来人の往来が多い地域であった。第2次世界大戦中の昭和17年には現在の自衛隊宇都宮駐屯地に軍需工場が作られ、その周辺に商店街などが形成され、賑わい発展した地域であり、近年では、平成15年度に自治会、防犯協会、その他ボランティア等、地区内で活動する団体をもって組織する雀宮地区まちづくり推進協議会及び五代若松原地域づくり推進協議会が発足するなど、地域の活性化を図る機運が高い地域となっている。

本地区の玄関口であるJR雀宮駅はJR宇都宮駅から南に約8kmの距離に位置する1つ目の駅であり、平成23年3月に駅東口及び東西自由通路が供用開始されるとともに、駅東側において平成23年7月に宇都宮南図書館が開館、9月には県立宇都宮工業高校が移転・整備されるなど、教育・文化関連施設が立地し、駅を核とした地域交流拠点としての機能強化が図られつつある。

しかし、駅西側においては、特に朝夕の通勤通学時に自動車、自転車、歩行者が錯綜し危険な状況であることから、交通利便性・安全性の向上が求められており、現在駅周辺の主要な道路において整備が進められている。

また、本地区の西側に位置する五代若松原地域は、地域まちづくり推進協議会を母体に防犯パトロールや地域の見守り活動など地域活動が活発な地域であるにも関わらず、市内において唯一、地域の活動拠点が整備されていない状況にある。

本地区では、平成19年度から平成23年度にまちづくり交付金（第一期）を活用し取組を進めたところであるが、更なる事業効果の発現を図るため、都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金）を活用し事業を推進していく。



（1）計画概要

- 【地区名】雀宮地区
- 【面積】196ヘクタール
- 【交付期間】平成24年度～平成28年度
- 【交付対象事業費】約11億7千万円（国費率40%）
- 【区域】雀宮町、雀の宮1～5丁目、新富町、五代2・3丁目、若松原1～3丁目の一部 外

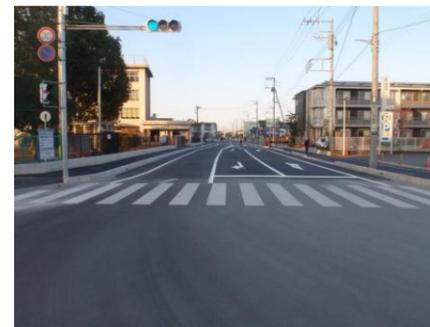
（2）まちづくりの目標

- 【大目標】

地域交流拠点である雀宮駅周辺地区の交通結節機能の強化と地域活動が活発な魅力あるまちを形成する。
- 【小目標】
 - ・ JR雀宮駅周辺の基盤整備の推進により、地域の安全性・利便性を高め、交通結節機能の強化を図る。
 - ・ 地区の玄関口である駅周辺において、市民や来訪者の快適性を高める良好な景観形成を図る。
 - ・ 地域活動の拠点施設の整備により、地域を支えるまちづくり活動を促進する。

（3）事業

- 【道路】市道704号線【右図①】、市道713号線【右図②】
- 【高次都市施設】五代若松原地域コミュニティセンター【右図③】
- 【地域創造支援事業】雀宮地区市民センター改修事業【右図④】、魅力ある景観づくり事業



① 市道704号線



②市道713号線

③五代若松原地域
コミュニティセンター



④雀宮地区市民センター